

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177600301		
法人名	有限会社 共生會		
事業所名	ぐるーぷほーむ 樹林		
所在地	石狩市緑苑台東3条3丁目255 (電話) 0133-76-2601		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年7月27日

【情報提供票より】 (21年6月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 6月 7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人、非常勤 1人、常勤換算8.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建の	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 20,000 円 暖房費(10~4月) 10,000円	
敷金	有 (42,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要 (6月 25日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	84歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	やしま内科クリニック、平川歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの大きな特徴は、運営者が管理者を務め、職員と一緒に介護に当たっており、家族の一員となって利用者の暮らしにとけ込んでいることです。広く開放感に満ちたリビング・キッチンが利用者がゆったりと過ごせるオアシスとなっています。ホームを最初に利用する際に、3日間にも及ぶ宿泊を伴う体験入居で少しでも利用者に馴染んでいただく配慮は特筆に値します。運営者は職員の育成に力を入れています。計画的な外部研修への参加やホーム内での勉強会も週2回のミーティングに併せて行なわれており、資格取得への支援もサービスの質の向上に反映されています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の改善課題では、「運営に関する家族等の意見の反映」は、家族との会話の時間を多く取ろうとする努力が効果を上げています。「重度化に向けた方針の共有」では、家族との会話を通してホームの方針説明が行なわれて改善が見えます。「災害対策」でも避難訓練の際に近隣住民の協力がいただけるなど改善の兆しが窺えます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価、外部評価の意義を職員は共有しており、日々の職務の中からサービスの質の向上を図ろうとする姿勢が窺えます。自己評価で7項目、外部評価で3項目の取り組み案件も、日々のミーティングを通して改善されるよう期待します。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヵ月毎の開催もメンバーの十分な理解のもと順調に推移しています。ホームの活動状況が詳細に報告され、メンバーからの助言、質問もあるなど活発な会議が窺えますが、議事録での詳細な記録への取り組みが必要です。また、会議に専門家を招いて勉強会も併せて行なうなどの柔軟さと斬新さも期待されます。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問頻度は高く、職員は来訪時での会話を大切に意見、苦情などを聞きながらホーム運営に反映しています。運営者は、会話時間をもっと多くして家族の意見等を運営に反映しようとの試行錯誤を続けています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者が町内会の役員も兼務しており、ホームの運営や活動について理解が得られてきています。ホームと利用者は地域の住民の一人として町内の諸行事に積極的に参加し、交流を図る努力が続けられています。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者及びホームが地域を構成する一住民として暮らすため、町内会などの活動を通して地域に密着しようとする独自の理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の全体ミーティング、毎日のミーティング、勉強会の機会を捉えて職員全員で理念を確認し合いながら、実践に向け共有を図るように努めています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の諸行事には利用者も一緒に積極的な参加に努め、地域の住民との交流を図っています。また、地域の認知症のお年寄りと家族に対し、民生委員とタイアップしながら説明会、相談の窓口となっており、認知症サポートとして、活動している職員もいます。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に対する意義を認識しながら、全員が参加して自己評価を行なっています。毎週火曜日・金曜日の午後にセットされている勉強会で評価を活かした具体的な改善も話し合われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、メンバーのご理解によりほぼ2ヵ月毎に開催されていますが、会議の内容を記録する議事録の整備が必要です。また、会議の内容が毎回同じようなテーマとなっている傾向が窺えます。	○	ホームの状況報告の資料はありますが、メンバーの発言内容（質疑や応答、提案など）の議事録整備の取り組みを望みます。また、会議の内容も柔軟に考え、講師を招聘してミニ勉強会なども加える工夫をし、魅力ある会議への取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する認知症に関わる職員研修会や勉強会など、市の担当者と相談し実施するなど、常に連携しながらサービスの質の向上に努めています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問頻度が高いことから、利用者の状況などの報告は来訪時の会話やビデオ公開と電話に委ねていますが、ホームの行事や利用者の表情など、また、利用者一人ひとりの暮らしぶりなど、タイムリーな報告には一工夫が必要と思慮します。	○	家族へのお便りは以前に作成し配布した経緯がありますが、現在は中断されており復活への取り組みを期待します。利用者の暮らしぶり、ホームが行なおうとしている行事への参加要請、インフルエンザなどの感染症などは家族の対応も必要です。お便りでの幅広いニュースにより、家族の絆を一層強化する取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時などから得た意見や要望をホーム運営に役立てています。従来行ってきた定期的な通院の支援を家族に戻す方策の中で、半年は家族とホームの協働で行なうこととし、家族との会話の時間を多く持ちながら、話し合う内容を大切にするなどユニークな試みが行なわれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響を重要視して、可能な限り異動を回避するよう努めています。止むを得ない異動で新人職員が入った際には、1ヵ月間は職員の複数配置により、利用者との馴染みが早まるように努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に情熱を持って対応しています。研修の受講計画もしっかりと確立され、資格取得に挑戦する職員には月4～5回の特訓レッスンも行なうほか、各種の研修会出席にはシフト変更で職員の便宜を図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での情報交換や交流に努めています。話し合いの中から他のホームの職員が当ホームを訪れるなど、徐々に交流が広がっています。実務研修の際には職員を1週間にわたり、他のホームに派遣するなどしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	このホームでは、入居に際して利用者と家族、職員の面談から始まります。また、ホームの暮らしを知っていただくため3日間の体験入居で、初日は家族と共に宿泊し、2～3日には利用者一人で宿泊を体験していただき、馴染みを確かめながら入居を決めています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、常に利用者が人生における大先輩であるとの思いをもって接することとしています。一緒に暮らすなかで喜怒哀楽を共有しながら、得がたい生活の知恵を教わることもあり、お互いが支えあう関係で過ごしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日々接する中で、一人ひとりの思いや意向、また希望を把握するよう努めており、職員間で共有することとしています。意思の疎通が困難な利用者の場合は家族の協力もいただいているが、最終的には利用者本位で検討が重ねられます。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の係わりの中で利用者や家族の意向、要望を把握しながら、職員間で意見交換が行なわれています。毎週2回のモニタリングでも主治医の所見も参考に介護計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月を定期的な見直し期間として介護計画の見直しが行なわれています。利用者、家族の要望も考慮し、利用者にとって最良の介護について検討が重ねられています。また、利用者の体調や主治医の意見等を加味して、定期的な期間に拘らず、現状に即して見直しが行なわれています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の都合により、趣味の買物や医療機関への送迎、毎週2名のボランティアによる楽しみ、また、外食などホームの多機能性を柔軟に活かしながら支援が継続されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの病状に係わるかかりつけ医の受診支援が行なわれています。通院などが困難な利用者への対応として、ホームの協力医の支援で毎週2回の往診で体調の維持管理が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで入居の際に重度化に向けた指針の承諾書受領までは至っていませんが、入居後に状態に応じてホーム指針を伝えながら家族と相談しています。ホームでは医療行為の制限もあり看取りに至る支援は現在していませんが、協力医とは緊密な連携が保たれています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎週2回行なわれるミーティング（勉強会）では、利用者の誇りや尊厳の保持、プライバシーの確保について話し合いが行なわれています。また、利用者の個人情報の書類の扱いは、施錠可能な書庫で保管するなど最善の配慮をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームではのんびり、ゆったりの暮らしを支援するため、行事や通院などは当日に知らせるようにしています。リビングでの暮らし、居室での昼寝や読書など、日々その人らしい暮らしを支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕の食材は、業者から提供されますが、味付けなど料理は職員が行ないます。昼食のみはホーム独自の食事、食材の買物にも利用者が同伴することがあります。笑顔で楽しい食事の様子を見ることができます。食事下拵えや下膳、食器洗いなども食事の延長として楽しみの一つとなっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に5日の入浴日を設けており、体調を見ながら少なくとも週3回の入浴を勧めています。時間の制限などせずにゆったりと職員と弾む会話を楽しみながら時間を過ごしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の仕事、掃除、食後の後片付けなど、それぞれが役割りを楽しみながら行なっています。編み物、読書など趣味を活かした楽しみごとが日々行なわれ、市の図書館の書物も利用しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季間や天候に左右されますが、利用者の希望により外出の機会を多くするよう職員は努めています。日常的な散歩や買物、ドライブなど外気浴によりストレスの解消に努めています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていません。近所の方々にもお願いしていますが、職員の気配りなどでヒヤリハットの案件は起きていません。夜間のみ防犯上、夜9時から翌朝6時まで施錠しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただいて年2回の火災避難訓練が行なわれており住民の参加協力もいただいています。職員は救急救命（AED操作も含む）の訓練も受けるなど、不測の災害への対応に備えていますが、人手が少ない夜間を想定した訓練が未実施です。	○	人手が少ない夜間においては、職員に加えて近隣住民の協力が必須と思慮します。これから行なう避難訓練に夜間を想定した取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を提供する業者では毎日の朝夕の献立とカロリー、栄養摂取など細やかに分析したデータが送られています。管理者は水分の摂取について特に気配りをしています。体重の3%を毎日の水分摂取の目標として記録しています。体調の改善、特に便秘の解消に役立って成果を上げています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から広がるバリアフリーは、ホーム内すべてに行きわたります。吹き抜けの天井はリビングを更に広く感じさせ、開放感を醸し出しており、利用者にとって心地よく過ごせるオアシスとなっています。四季を彩る壁の装飾には利用者が主人公の作品が並び見る人をひきつけます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が持ち込んだベットや家具が整然と並んでいます。クローゼットの収容力が大きいため居室が広く感じます。居室内の配置は利用者及び家族に決めていただきますが、時には配置換えを行ない職員も支援をします。窓からは隣家の溢れるばかりのポピーの花が望める他、遠くのポプラ並木の緑が利用者の暮らしに潤いをもたらしています。		

※  は、重点項目。